引用文献

Baly, J.S., 1873. Catalogue of the phytophagous Coleoptera of Japan, with descriptions of the species new to science. Transactions of the Entomological Society of London, 1873: 69–99.

Chûjô, M. & S. Kimoto, 1961. Systematic catalog of Japanese Chrysomelidae (Coleoptera). Pacific Insects, 3(1): 117–202.

今坂正一 , 2009. 大野原で確認した昆虫類－長崎県 RDB 調査の見直し調査の一環として－ . こがねむし（長崎昆虫研究会会報）, (75): 1–25.

今坂正一 , 2011. 2010 年に大野原で確認した甲虫類 －長崎県 RDB の見直し調査のまとめ－ . こがねむし（長崎昆虫研究会会報）, (76): 1–29.

今坂正一・大塚健之 , 2011. 2010 年に熊本県阿蘇地方の草原で採集した甲虫類について . 熊本昆虫同好会報 , 54(2): 1–27.

Kimoto, S., 1964. The Chrysomelidae of Japan and the Ryukyu Islands II. Journal of the Faculty of Agriculture, Kyushu University, 13(1): 119–139.

木元新作・滝沢春雄 , 1994. 日本産ハムシ類　幼虫・成虫分類図説．539 pp. 東海大学出版会.

Matsumura, Y., S. Sasaki, S. Imasaka, M. Sano & M. Ôhara, 2011. Revision of *Lema* (*Lema*) *concinnipennis* Baly, 1865 species group (Coleoptera: Chrysomelidae: Criocerinae) in Japan. Journal of Natural History, 45: 1533–1561.

大野正男 , 1967. 日本産ハムシ科研究の手引き（1）. 昆虫と自然 , 2(3): 14–19.

佐々木茂美 , 2009. 大分県西部・津江地方の甲虫 (2008). 二豊のむし（大分昆虫同好会会報）, (47): 12–25.

佐々木茂美 , 2010. 大分県西部・津江地方の甲虫 (2009). 二豊のむし（大分昆虫同好会会報）, (48): 58–71.

佐々木茂美 , 2011. 大分県西部地方の甲虫 (2010). 二豊のむし（大分昆虫同好会会報）, (49): 9–32.

Suzuki, K., 2005. Description of a new species of the genus *Lema* (Coleoptera, Chrysomelidae, Criocerinae) from Honshu, Japan. Elytra, 33(1): 86–94.

Winkler, A., 1924–1932. Catalogus Coleopterorum regionis palaearcticae. Vienna (Austria): Verlag von Albert Winkler.

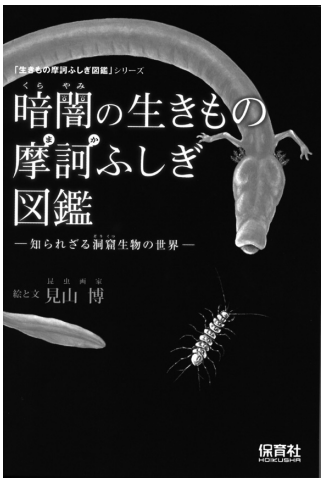
書評

見山　博（著）
「暗闇の生きもの摩訶ふしぎ図鑑
— 知られざる洞窟生物の世界 —」
保育社
2011 年 7 月 11 日発行 119 pp.　1,800 円

著者の見山博さんは，私と同じ愛媛大学の昆虫学研究室出身で，学術探検部の後輩でもある．当初彼は漫画家を志したが，絵で「飯」を食うなど至難の時代である. 彼の懐具合は体形に現れ, めったに太くなることはなかった．しかし，今では奥本大三郎さんとのコンビで「ファーブル昆虫記」の挿し絵を担当する「昆虫画家」としてその名を知られる．もちろん今は太い.

さて本題に戻ろう．この本は，保育社の「生きもの摩訶ふしぎ図鑑」シリーズの一冊で，見山さんの前著「昆虫摩訶ふしぎ図鑑」の続編でもある．写真技術が飛躍的に進歩した近年，図鑑と言えばほとんどが写真集の感があるが，本書はすべて見山画伯の自筆になる彩色画である．本来が虫屋であるから，絵の正確さは比類を見ない．そして漫画家志望の面目躍如, 著者自身が「ホラグマ先生」として登場し，蘊蓄を傾けるし，洞窟探検の極意も伝授する.

第 1 章（ようこそ，暗闇の世界へ）では地下生物の起源や進化，学問としての洞窟学などの解説から始まる．第 2 章（これが暗闇の生き物たちだ！）では，様々な節足動物から魚類，貝類まで，代表的な洞窟生物について，発見のエピソードなどを交えながら紹介してゆく．コラム（わからないことがいっぱいだ）では，近年の研究成果に基づいた未解明の問題にも言及する．コーナー（ホラグマ先生のホラアナ講座）は，著者自身の洞窟探検の経験に基づいた考えや技術の紹介，エピソードなどが語られている.



これは，いわば見山さんのライフワークとしての洞窟生物学，なかんずくチビゴミムシ探索の集大成でもある．にもかかわらず，小学生が読んでも十分に理解出来るように平易な文章で書かれ，しかも虫屋が読んでも十二分に面白い．ページ毎にまとまっているのでどこから読んでも楽しめる．価格も手頃で，書棚に並べる一冊として是非ご一読をお勧めする.

（三浦市　大林延夫）